印刷新報
2025年(令和7年)7月31日(木曜日)
(第三種郵便物認可)
第4947号

誠伸商事

無処理版メリット体感

望月印刷の業平工場で見学会

多角的に理解深め、普及図る

誠伸商事（福田和也社長、東京都大田区）は7月3日、望月印刷（望月邦彦社長、東京都台東区）の業平工場（東京都墨田区）で「SONORAによる完全無処理版工程 工場見学会」を開いた。

業平工場は環境対応と工程短縮の観点から、2022年にコダックの無処理版SONORAを全面的に採用し、現在、耐刷性、視認性のアップなどを目指し「SONORA XTRA」への切替えを行っている。

また、昨年10月にはリョービMHIグラフィックテクノロジー（RMGT）の菊全判ワイド印刷機「RMGT 1020V2 TP+LED-UV」を導入。今年5月にはCTPを更新して、工場5階の刷版室から印刷機のある1階に移動し、さらに効率化された生産ラインを構築した。これに伴い、刷版室を廃止している。

開催にあたり福田社長は「事前に無処理版について多くの質問をいただき、うれしい限りだ。事前に質疑応答してから見学した方が、皆様が持ち帰ることが多くなるのではないかと思う。どのメーカーの無処理版を使っていても、また導入前であっても、本日は必ず何かを得ていただけると確信している。今日も暑いが、業界もこのように熱ければいいと願っている」とあいさつした。

福田社長

佐々木工場長

続けて、コダック・プリント事業部東日本営業グループの赤坂康佑セールスマネージャーが完全無処理版SONORA導入のメリットについて、RMGT営業本部東日本支社営業部営業1課の小幡和彦主任がRMGT 1020V2 TP+LED-UVについて、ホリゾン・ジャパンAPAC営業本部東日本営業部の宮川一夫シニアアドバイザーが業平工場の製本設備について、それぞれ解説した。

望月印刷からは工場長の佐々木康生・平版印刷部部長が、無処理版導入の理由や、有処理版との運用の違い、使用する資材、耐刷性など、事前に参加者から寄せられた質問に答え、「ドットゲインへの対応が課題となるが、機上現像にもトラブルがない。耐刷性や視認性がやや弱いが、運用で大きく変わることはなく、コスト削減メリットが大きい」と述べた。

工場見学では、RMGT 1020V2 TP+LED-UVによる無処理版の機上現像の実演や製本フロアの見学で効率化された工場を体感した。

さらに、現在は使われていない刷版室でSONORAの実物を見ながら、その特長や無処理版における網点チェックの方法などの説明を受けた。

見学後には、実際に完全無処理版を運用している金羊社・品質保証室の友永義行部長と博進紙器製作所・印刷部の野嶋和巳部長が導入の経緯を説明し、現状について「メリットが多く、デメリットはわずか」と報告した。

セミナーと実際の見学で効率化された工場を体感